

# 進め！ドクター大竹の会



会報 第12号 2017年10月9日発行

## 大竹進談話「私たちは衆院選をどう闘うか」

**総選挙で市民の底力を示そう！**

**～戦争か、平和か？ 独裁者に希望はない～**

**「進め！ドクター大竹の会」 大竹進**

「一夜にして政党ができ、一夜に政党が無くなる」異常事態です。おまけに、前原民進党代表は「政治資金を配ったうえで、希望の党に合流」しました。有権者・市民から見れば、「振り込め詐欺」「やるやる詐欺」です。「資金の山分けと解党」が合法だといわれても、出どころが私たちの血税である政党助成金やカンパでは怒りは収まりません。選挙できっちり市民の底力を示すことを訴えます。

今回の総選挙で、「自公も希望の党も過半数はとれない」、「自公と希望・維新」が連立する可能性があり、「大政翼賛会の再来」と警鐘を鳴らしている人がいます。

現在の混乱は、今から約80年前、戦前の歴史と酷似しています。キーワードは、「国難突破」、「解党・分裂」、「大政翼賛会」です。

日中戦争が勃発した1937年ころから「国難突破」という言葉が氾濫していました。その後、1940年10月、ナチスを真似て「大政翼賛会」が発足しました。同時期に労働組合の全国組織も分裂・解散が続き、その1年2か月後には太平洋戦争が始まっています。

そして、共産党を除く左翼政党と右翼政党が一気に「解党」し、内閣総理大臣が総裁となる大政翼賛会に合流しました。政党が消滅した後は軍部の方針を追認する「翼賛体制」が出来上がりました。戦争が始まった4か月後の衆議院選挙では、大政翼賛会は陸軍の機密費を選挙資金に使い、定員と同数の466人が立候補し381人(82%)が当選しました。大政翼賛会は全国民の「心とお金」を戦争に動員させる重要な役割を果たしました。

誰でも、「同じような状況に置かれた時に、同じような判断と行動をとる」のが一般的です。同じ過ちを犯さないためには、歴史に学ぶことが重要です。

今回の総選挙では、立憲主義を否定し集団的自衛権容認、戦争法・共謀罪を強行採決してきた自民・公明党と維新には投票しないことを呼びかけます。さらに、憲法改正を掲げ、戦争法を肯定する希望の党にも投票しないことを訴えます。

大政翼賛会を否定する市民の意思を明確に示しましょう。野党三党(立憲民主党、共産党、社民党)が1/3以上の議席をとれるよう全力投球いたしましょう。

比例区では、立憲民主党、共産党、社民党に投票することを強く訴えます。青森県の小選挙区で白票を投じては、大政翼賛会を否定する市民の意思を示すことはできません。小選挙区でも明確にノーの意思表示を示しましょう。棄権は相手の思う壺です。投票を強く訴えます。

2017年10月7日

「進め！ドクター大竹の会」公式ホームページ：<http://susume-dr-otake.jp>

大竹進 公式ホームページ：<http://otake-susumu.jp>

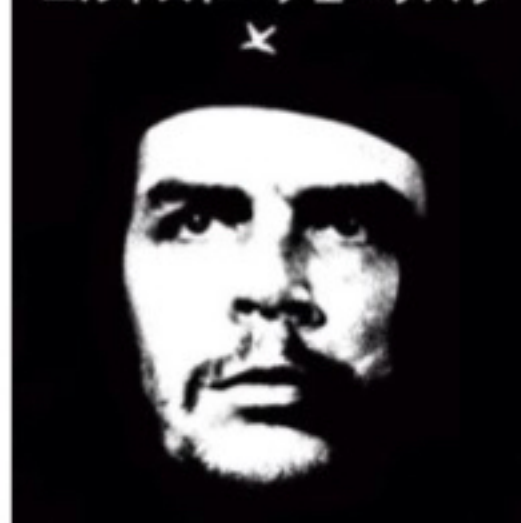
「進め！ドクター大竹の会」Twitter @rb041

＜2017年会費納入のお願い＞

郵便振替口座 02260-9-115810

年会費 1000円

エルネスト・チェ・ゲバラ



「来日したゲバラは、日本政府が準備した予定を蹴って広島を訪問。平和資料記念館で彼は、『アメリカにこんなにまでされて、それでもあなたがたはなおアメリカの言いなりになるのか』と問いかけた」(週刊金曜日 9/29号より)

＜総選挙における「進め！ドクター大竹の会」の活動方針＞

1. 立憲主義の立場に立つ政党を支援するために、会員に呼び掛けると共に、「市民連合あおもり」に参加して活動する。
2. 県外の小選挙区の候補者でも、「立憲主義」や「原発・核燃反対」を明確にしている候補者には、できる限りの応援や支援を行う。

【北海道8区】

逢坂誠二候補（無所属、前民進党議員）を応援します♪

逢坂誠二氏は、2015年の青森県知事選挙に際して大竹進氏を支持し、為書きも送っていただきました。また、函館で毎月行われているパイパイ大間原発はこだてウォークに参加したり、青森県の大間現地で開かれた反原発イベントに来てくださったり、脱原発の意思を明確にしています。逢坂氏は今回 無所属での出馬なので、個人献金を募集しています。☆ご協力をよろしくお願いいたします☆

逢坂誠二 ホームページ <http://ohsaka.jp>

ツイッター @seiji\_ohsaka

棄権はダメ。♪だめよ、だめだめ。投票に行こう！

【ナチス強制収容所に入れられたマルチン・ニーメラー牧師の言葉】

ナチスが共産主義者(共産主義者)を弾圧したとき、私は不安に駆られたが、自分は共産主義者ではなかったので、何の行動も起こさなかった。  
 その次、ナチスはソシアリスト(社会主義者、労働組合員)を弾圧した。  
 私はさらに不安を感じたが、自分はソシアリストではなかったので、何の抗議もしなかった。  
 それからナチスは学生、新聞人、ユダヤ人と、順次弾圧の輪を広げていき、そのたびに私の不安は増大したが、それでも私は行動に出なかった。  
 ある日ついにナチスは教会を弾圧してきた。  
 そして私は牧師だった。  
 だから行動に立ち上がったが、その時は、すべてがあまりにも遅過ぎた。



「立憲主義」  
 決壊寸前  
 ポイント オブ  
 ノーリターン

青森県を変えよう！大竹さんと進む私たちの会  
 (略称「進め！ドクター大竹の会」)

住所：〒038-1306 青森市浪岡福田 2丁目 13-8

Tel. 0172-62-3300 FAX：0172-69-1106

E-mail: susume.dr.otake@gmail.com

